

エストケム

医薬中間体を本格展開

中国社フツ化合物拡販

エストケムは医薬中間体市場で本格展開を開始する。中国のPERIC(ペリック)社で先ごろフツ化合物であるトリフルオロメタン・スルホン酸(TfOH)の新工場が完成した。これを機にエストケムはペリック社のTfOHとその誘導体の市場開拓を加速する。TfOHを原料とする中間体の受託合成も目指す。同製品を切り口に顧客からの情報やニーズを汲み取り、医薬品分野における事業拡大に生かす。



新工場の竣工式であいさつする李俊華(リジュンワ)社長

TfOHはその誘導体の大手サプライヤーであるペリック社は河北省邯鄲市に本社工場がある。大手国営企業である中国船舶重工集団の子会社

で、潤沢な資金力を生かして新工場を今春建設、今月18日に竣工式を行った。これによりTfOHの年産能力は1.5倍超の500トと世界最大となっ

た。ペリック社のTfOHとその誘導体は、海外では大手製薬・化学メーカーに採用実績があり品質も安定している。エストケムはペリック

社のTfOHおよびその誘導体を医薬中間体やエレクトロニクス関連材料に販売する。今後は日本の顧客から、TfOHを原料とした中間体のペリック社での受託合成の注文獲得も目指す。

エストケムは、2020年度に売上高で単体290億円、グループ335億円、売上高総利益率5.4%を目指す5カ年の中期経営計画を推進している。中計では商材の高付加価値化をテーマに掲げており、医薬中間体もその一つに据えている。TfOHを皮切りに顧客からの情報やニーズを汲み取り、医薬品分野

における品揃えやサービスの強化につなげていく。

同社は4月に東京ビッグサイトで開催されたC

PhI Japan 2018(国際医薬品原料・中間体展)でもTfOHを初めて紹介して認知度を高め、新規顧客獲得に努めた。